



平成 16 年 5 月 7 日

業績予想の修正に関するお知らせ

上場会社名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
(コード番号 7707)
本社所在地 千葉県松戸市上本郷 88 番地
問い合わせ先 取締役業務本部長兼経営企画部長 秋本 淳
TEL 047-303-4800 URL <http://www.pss.co.jp>

最近の業績動向等を踏まえ、平成 16 年 1 月 28 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 通期連結業績予想の修正(平成 15 年 7 月 1 日～平成 16 年 6 月 30 日)

(単位：百万円、%)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------------------------|-------|------|------|-------|
| 前回発表予想 (A) | 2,740 | 100 | 60 | 56 |
| 今回修正予想 (B) | 2,550 | 50 | 100 | 110 |
| 増減額 (B - A) | 190 | 150 | 160 | 166 |
| 増減率 | 6.9 | - | - | - |
| (ご参考) 前期実績 平成 15 年 6 月期 | 2,433 | 66 | 60 | 56 |

2. 通期単体業績予想の修正(平成 15 年 7 月 1 日～平成 16 年 6 月 30 日)

(単位：百万円、%)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 |
|----------------------------|-------|------|------|-------|
| 前回発表予想 (A) | 2,450 | 117 | 70 | 32 |
| 今回修正予想 (B) | 2,300 | 10 | 50 | 155 |
| 増減額 (B - A) | 150 | 107 | 120 | 123 |
| 増減率 | 6.1 | - | - | - |
| (ご参考) 前期実績 平成 15 年 6 月期 | 2,308 | 170 | 149 | 147 |

3. 連結業績予想の修正理由

売上予想の修正理由

主力製品であるDNA自動抽出装置の第3四半期末(3月末)時点での受注残高は848百万円となっており、全て今期中での出荷予定となっております。ロシュグループおよびキアゲングループからの受注に関しましては、前回見通しと大きな差異はなく順調に推移しておりますが、米国および国内での自社販売において、売上予算の達成が難しい状況となっております。このためDNA自動抽出装置等の売上予想を1,700百万円(前回予想1,740百万円)と40百万円の修正といたしました。

また、プラスチック消耗品等のその他売上に関しまして、第3四半期までの販売状況から今後の見通しを推測し、売上予想を850百万円(前回予想1,000百万円)と150百万円の修正といたしました。自社販売やOEM先における新機種発売などに伴い、プラスチック消耗品の需要が伸びることを予想しておりましたが、今のところ昨年並みの推移に落ち着いております。しかしながら、これらの売上高は、装置販売に伴い増加していく性質のものであり、中長期的には大きなビジネスになっていくものと思われれます。

上記要因から予想売上高は2,550百万円(前回予想2,740百万円)と190百万円の修正といたしました。

利益予想の修正理由

売上総利益に関しましては970百万円(前回予想1,130百万円)と160百万円の修正といたしました。売上高の下方修正に伴うものと粗利率を前回予想に比べ3.2ポイント(41.2% 38.0%)引き下げたことが各々80百万円程度の影響額となっております。

既存装置の粗利率に関しては、概ね予想通りに推移しておりますが、新製品に関しましては、製品の本格的な量産直前に細部の仕様変更や多くの検証作業などの付加もあり、製造原価が計画値よりも増加してしまう傾向にあります。試薬評価や性能試験、プレマーケティング用などでOEM先に対し数十台の販売は行いますので、それらの影響から、粗利率を2.7ポイント修正いたしました。その他、為替レートの想定を1ユーロ=133円から130円へと変更したことから粗利率を0.5ポイント修正しております。

新製品の立ち上げ期や特注機などにおいては、実際の粗利率の見通しは難しいものとなっております。しかし、製造を繰り返す中で安定的になり、様々な工夫により利益率は上昇していくものと考えております。

一方、販売管理費に関しましては、開発費の金額が大きく影響しますが、第4四半期に関しましては継続テーマに取り組んでおり、概ね第3四半期並みに推移するものと推測されます。したがって、販売管理費の予想を1,020百万円(前回予想1,030百万円)といたしました。

上記要因から予想営業利益は50百万円(前回予想100百万円)と150百万円の修正といたしました。

なお、当社のユーロ建て販売に対する影響としては、第4四半期において、1ユーロ=130円の想定から10円動きますと、売上高、利益ともに25百万円の影響(円安ならばプラス、円高ならばマイナスの影響)を受ける見通しとなっております。

通期予想を四半期毎の業績推移にまとめますと下表のとおりであります。

(単位:百万円、単位未満は切り捨て)

| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 通期合計 | |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | 実績 | 実績 | 実績 | 見込 | 見込 | 構成比 |
| 売上高 | 512 | 407 | 553 | 1,076 | 2,550 | 100.0 |
| 売上総利益 | 216 | 143 | 208 | 401 | 970 | 38.0 |
| 販売管理費 | 260 | 274 | 240 | 243 | 1,020 | 40.0 |
| (内、開発費) | (81) | (82) | (48) | (46) | (260) | (10.2) |
| 営業利益 | 44 | 131 | 32 | 157 | 50 | 2.0 |
| 経常利益 | 69 | 141 | 38 | 149 | 100 | 3.9 |
| 当期純利益 | 74 | 140 | 40 | 145 | 110 | 4.3 |

中期的な展望

現在、当社グループは業容拡大に向けて様々な活動に取り組んでおります。下記a)～e)に、今後半年以内に実現可能な取り組みを記載します。

- a) ロシュ社向けのDNA自動抽出装置の新製品「MagNA Pure Compact」に関しては、下期から量産体制に入り、下期の売上見通し230百万円と業績に大きく貢献し始めております。
- b) 三菱化学ヤトロン社向けの免疫化学発光測定装置「PATHFAST」に関しては、今秋発売開始に向けて、最終的な詰め段階を迎えております。病院や検査センターなどの臨床市場向けに販売するもので、年商400百万円を見込んでおります。当社にとっては、ロシュ、キアゲンに次ぐOEM先の柱となるものと考えております。また、本装置はDNA抽出ではなく免疫測定であり、当社特許技術マグトレーション・テクノロジーの利用分野の拡大にも資するものと考えられます。
- c) 大容量検体(7ml、10mlなど)に対応したDNA自動抽出装置として、自社ブランドの新製品「Magtration System 8Lx」に関しましても販売を開始いたしました。5月には1台目の納入が決まっております。本装置のユーザーは限られますので、年間数台程度の販売見込みであります。ユーザーは検査センターなどのルーティン稼働する先が見込まれますので、1台の稼働で年間20～30百万円の試薬・消耗品ビジネスになるものと考えられます。既にドイツのケマジエン社と提携し、自社試薬の販売準備も完了しております。
- d) 自社ブランドのDNA自動抽出装置であるパーソナルタイプ「Magtration System 6GC」の姉妹機として、新製品「Magtration System 12GC」を6月から販売開始します。製品名の数字は1バッチでの検体処理数を指します。これら装置に搭載できる試薬としては、「全血からのゲノムDNA抽出」「大腸菌からのプラスミドDNA抽出」「His-Tag 融合タンパクの精製」の3種類でしたが、8月には「組織・培養細胞からのt-RNA抽出」用の試薬を販売開始する予定であります。本装置の自社販売としては、当期は十数台に留まる見込みですが、機種と試薬の品揃えを増やしていくことで、これら装置の販売分野を広げ、業界に浸透させていきたいと考えております。
- e) 糸状DNAチップである「バイオストランド」に関しては、研究者が手作業にて使用できる形態にキット化した製品として、6月末の完成を目指して開発活動を行っております。まずは、バイオ研究市場に対して、バイオストランドの良さを理解していただく啓蒙活動のための製品化を予定しております。価格等は未定です。

米国子会社の活動として、昨年に試作機を納入した米軍に関しては、製品化まで今しばらく

時間を要する見込みではありますが、引き続き対応を続けております。また、昨年から取引を開始しているバイロロジック社やプロテオームテック社に引き続き、様々な米国バイオベンチャーとの交渉を進めている他、大手の試薬・バイオ企業とのコンタクトも続けております。こういった活動がどこで開花するかは明確にはわかりませんが、契約に漕ぎ着けた際には、公表してまいりたいと考えております。

その他、DNAの抽出から増幅、測定にいたるまでの一環自動化システムの製品化実現に向けた様々な取り組みも行っており、研究開発活動は多岐にわたっております。

したがって、業容拡大に向けて活動を加速しており、拡大に備えた人員確保や社内体制作りは、恒常的に実施されています。それらのことから、先行的に開発費や人件費、諸経費が増加しているのが現状でありますので、今しばらくのご猶予を頂戴したいと考えております。

4. 単体業績予想の修正理由

連結業績予想の修正理由に同じであります。

個別決算の予想における特殊事情としては、当社 100%の米国子会社である Bio-Strand, Inc. に関して、現在その事業活動を休止しております。同社については、今期末までには何らかの対応を実施する予定であり、特別損失として 100 百万円程度の処理を行う可能性があります。したがって、単体決算において損失を見込んでおります。(連結決算においては、既に財務諸表上に損失計上されておりますので、影響はありません。)

以 上